

フリーエネルギー実現回路2

(Dirac の置換えによる説明)

渡辺 満 (静岡県)

§0 はじめに

今やるべきことは、フリーエネルギーの基本的技術確立し、一方で、その物理学的原理を、明らかにすることである。

● 「Dirac の置換え」による説明

電磁ポテンシャルが電子に影響を及ぼす現象として、よく知られたアハラノフ・ボーム効果(AB 効果)がある。

当初は、アイ起電力発生メカニズムを、このアハラノフ・ボーム効果によって、説明しようと試みたが、説得力のあるものには、ならなかった。

しかし、その過程で、「Dirac の置換え」というのが、あることを知った。

$$p \rightarrow p - qA$$

p: 電子の運動量、 -q: 電子の電荷(q>0)、 A: 電磁ポテンシャル

これを使えば、簡単に説得力のある説明ができそうだ。

一方で、なぜ、こんな置換えをしていいのか、わからないので、しばらく、その理由を考えた。

1 週間後、まったく同じものが、時空理論からも出ることを、突き止めた。(よっしゃ！)

→ 時空理論/Dirac の置換え.pdf

異なる発想で作られた2つの理論から、ピッタリと一致する結果が出る。

そんなことは、偶然には、起き得ないことだろう。

これは、両者とも正しいということだ。

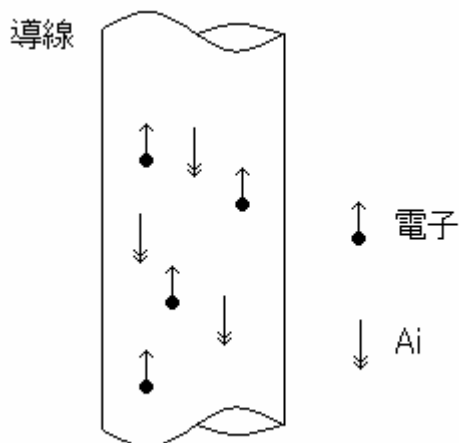
そこで、自信を持って、この「Dirac の置換え」を使うことにした。

Dirac に花束を！

● 導線に電流が流れると、導線の中には、自由電子の流れができる。

同時に、電流と同方向に電磁ポテンシャル A_i が作られる。

自由電子の流れは、この A_i の場の中に、置かれることになる。



(電子が負電荷のため、電流と電子の方向は逆である。)

コイルの場合には、隣接する導線の電流による A_i も、これに加わる。

(さらに、コイルにコアがある場合には、コアの作る A_i も、加わるだろう。)

さて、Dirac の置換えによって、電子の運動量は新たに、 $p - qA$ となる。

図からもわかるように、 p と $-qA$ は同方向になる。

すなわち、 A_i によって、電子の運動量は増大する。

電流によって作られる電磁ポテンシャル A_i の方向や大きさは、

A_i の方程式を解くことによって、知ることができる。

例えば、「砂川重信著：電磁気学」が詳しい。

● 電子の運動量の増大は、電流の増大となるだろう。

ここに、とんでもない現象が見えてくる、次の連鎖である。

電流増大 → A_i 増大 → 電流増大

この連鎖によって、電流は、どんどん大きくなるに違いない。

もし仮に、電磁気の体系内でエネルギー保存則が、成立していたとしても、

この現象は、電磁気学の体系外であるから、

エネルギー保存則が破れていても、少なくとも、電磁気学はこまらない。

(量子電磁気学まで行くと、もはや、エネルギー保存則は、成立しないということだ。)

§1 ウロボロス

巻き数の多いコイルに、強いパルス状の電流を入力すると、電磁誘導とは別の起電力が、順方向(電流と同じ方向)に生じる。僕は、これを、電磁ポテンシャル(Ai)によるものと考え、アイ起電力と呼んだ。今回、アイ起電力のメカニズムを探るため、「Dirac の置換え」を持ってきた。これでどうやら、うまく説明できたように思える。

このとんでもない増大連鎖、これを‘ウロボロス’と呼ぼう。
2つの要素が、互いに相手を強める、ウロボロス。
[電流増大⇔電磁ポ増大] ウロボロス
アイ起電力という、著しく顕著で不思議な現象は、ここからくるのだろう。

何年前、テレビで「ウロボロス」というドラマをやっていた。
確か、広末涼子が先生役をやっていた、復讐の物語である。
そのとき、その図を見て、これは考え方として使えるな、と思った。



ウロボロス

フリーエネルギー装置「ウロボロス」を、作れ！
地球を救え！ 歴史に名を残せ！ 広報しろ！

●放電に伴う負性抵抗

放電現象には、負性抵抗が伴うという話がある。
上に述べた、「Dirac の置換え」効果は、別にコイルでなくても、単独の放電であっても、成り立つに違いない。
すなわち、放電の負性抵抗は、このアイ起電力の可能性がある。

放電では、コイルの場合に比べて、パルスが圧倒的に強いので、
例え、単独の放電であっても、よいのだろう。
これによって、落雷の、あの物凄いエネルギーも、理解できるというものだ。

●これによって、テスラ・コイルの謎も解けた。

テスラ・コイル現象(アイ起電力)は、高電圧でなくても、わずか DC6V 電源でも、起こすことができるのだ。

% ウロボロスという名前は、いつ頃からあるのだろうか？

アリストテレス、ソクラテス、アルキメデス、ピタゴラス、アキレス。

これらはすべて、‘ス’で終わっていて、似ている。

‘カドケウス’というものもある。

ウロボロスには、‘永遠と再生’という意味があるらしい。

フリーエネルギーには、ピッタリだ。

(るるる)

2017 年 12 月発行 V2

2018 年 6 月発行 V3

著者:渡辺 満, 発行者:渡辺 満

Copyright 渡辺 満